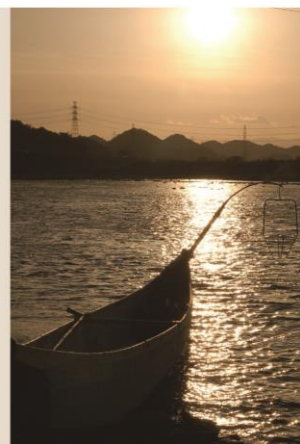




Rotary 関ロータークラブ

2019-20年度国際ロータリーテーマ RI会長 マーク・ダニエル・マローニー
 『ロータリー：ロータリーは世界をつなぐ ROTARY:ROTARY CONNECTS THE WORLD』
 2019-20年度 関ロータークラブ会長 テーマ
 ～私ができる社会貢献をしよう～ 54代会長 土屋佳久

■会長 土屋佳久 ■副会長 木村 聡 ■幹事 尾崎嘉彦
 白田龍司



■例会：火曜日 12:30

■例会場：関市本町 6-20 大垣共立銀行関支店 2F

■事務局：関市平和通 7-10-25 アメリカ 2F

本日のプログラム 第 2568 回例会 2020 年 1 月 28 日(火)



「民生委員児童委員の活動について」

関市社会福祉協議会 会長 澤井基光様



前例会の記録・第 2567 回 1 月 21 日(火)12:30

「児童虐待の現状と課題」

中濃子ども相談センター 所長 中島康徳様

◆「それでこそロータリー」斉唱

◆会長挨拶



先週 14 日、来賓として関青年会議所新年名刺交歓会へ行ってきました。関ロータークラブ会員の中にも OB が多く、当日も 4 名の方が出席してみえました。1 月より理事長になられた山中さんの挨拶があり内容が濃いのは当然ですが話している

姿に感動しました。10 分程の挨拶でしたが真っ直ぐ前を見て本当に落ち着いていて気持ちのこもった話をされていて流石だと思いました。内容は国際社会の目標である SDGs (持続可能な開発目標) の取組についても話されました。この SDGs は 17 項目あり、その中には「貧困をなくそう」や「安全な水とトイレを世界に」などロータークラブが目指している活動も多くあり共感できる話を中心に、未来を切り開くのは紛れもなく現在を生きる私たち青年なのです。そして今年のスローガン「行動力～その 1 歩が希望に満ちた未来を創る～」と高らかに宣言されました。関市の未来は明るいと思ったと同時に社会貢献をしている団体である私たちクラブも関市、又世界平和に向けて行動していかないといけないと気が引き締められました。この後、市長の挨拶の中で「運が良い人」はどんな人か！との話で「自分が運が良いと思っ

ている人は運が良い」私は運が良い人間だと思っている。と言われました。昨年のラグビーワールドカップの事前キャンプ地の誘致に成功し、その国南アフリカが優勝した。そして関市の名が知れ渡った。と自分はスーパーウルトラ運が良い男と言ってみえました。私も運が良い人間だと思います。それは日頃の行いを大切にして生きているから、真面目に生きているから運が良いのだと勝手に思っています。良くある話ですが、僕が運転していて先頭で信号が赤になる確率が本当に多いです。その時は一瞬イラッときますが、止まったおかげで、もしかしたらこの後の事故が防げたのではないかと毎回思うようにしています。事故でいいまずと先日マレーシアでオリンピック金メダル最有力と言われているバドミントンの桃田選手が重大事故に遭遇しましたが死亡していてもおかしくない状況であれだけの怪我で済んだという事は本当に不幸中の幸いと本人は思っているはずですので本番は期待できると思います。最後に「運が悪い人」が運を良くする方法は「自分は運が良いんだと思い込む」「誰よりも自分を大切に扱う」「自分だけでなく他人の幸せを願う」です。皆さんの周りで悩んでいる人が見えたら是非助言して下さい。

◆委員会報告

◎出席委員会 委員 粟倉晋吾
 会員 50 名中 出席 29 名 出席率 60.42%

◎ニコボックス委員会 委員長 塚原清文

会長・副会長・幹事の皆さん・・・本日は中濃子ども相談センター 所長 中島康徳様、ようこそ関ロータークラブへお越し下さいました。昨今の

社会問題でもある児童虐待についてのお話よろしくお願ひします。

加藤(浩)、林(昇)、長尾、塚原、栗倉の皆さん…本日は、中濃子ども相談センター 所長中島康徳様、お忙しい中お越しいただきありがとうございます。日本の宝、子供たちの現状を知り、私たちが子供を守れるように一緒に考えたいと思います。よろしくお願ひします。

後藤信介さん…正月早々、バースデーカードありがとうございました

◆幹事報告

◎例会終了後「理事、役員会」開催

◆「児童虐待の現状と課題」

中濃子ども相談センター 所長 中島康徳様



中濃子ども相談センター(児童福祉法上は児童相談所といいます)は、児童福祉法、児童虐待防止法に基づき業務を行っている相談機関です。18歳未満の児童のあらゆる相談に

応じています。現在、子どもの相談は子ども相談センターだけではなく、最も住民に近い市町村もその役割を担っています。中濃子ども相談センターは、一時保護、施設入所、里親委託等、専門的な知識を必要とする相談に応じます。一方、市町村は子どもや家庭の身近なところで子どもの福祉に関する支援を行います。平成28年の児童福祉法の改正により①子どもの意見が尊重される②子どもの保護者は子どもの育成について責任を負う③県は子どもの保護者を支援する、が明記されました。保護者を支援することが大原則ですが、ケースによっては子どもが家庭から離れる場合があります。その時は、養子縁組または里親委託⇒小規模な施設⇒大きな施設の順で考え、できるだけ家庭的で個別的な養育が求められています。中濃子ども相談センターの職員は総数25名で12人のケースワーカーが虐待等の相談業務にあたっています。5年前から警察官のOBが1名、2年前からは弁護士(2回/月)も勤務しています。平成30年の1年間に1120件相談があり、そのうちの児童虐待は301件で全体の26%ですが、実際は多くの時間を虐待対応に費やしています。職員は24時間365日、いつでも虐待通報があれば現場に出向くことが出来るよう体制を組んでいます。今年度の岐阜県全体の児童虐

待対応件数は対前年度比57%増で今年度は2000件を超える勢いです。中濃子ども相談センターの対応件数も対前年度比59%増の状況です。児童虐待の通告元は①警察②学校・市町村③近隣となっています。虐待通告のうち家庭から離れて施設などに行く子どもは全体のわずか2.9%です。多くの子どもたちが家庭の中で虐待者と一緒に暮らしていることとなり、地域の中で関係機関により注意深く子どもとその家庭を見ていくことが重要となります(市町村の要保護児童対策地域協議会)。平成29年の1年間に65人の子どもたちが虐待により亡くなっています。1週間に1.2人亡くなっている計算になります。0歳児が53.8%で、そのうち月齢0カ月児が50%です。虐待が起きてからではなく、妊娠中から支援を行うことが出来るよう市町村では体制を整えているところです。子ども相談センターは子どもの安全を確保するために保護者の同意を得ることなく、子どもを一時保護する場合があります。虐待担当のケースワーカーは、ベースには保護者の気持ちに寄り添うカウンセリングマインドを持ちながら対応しますが、子どもの安全を第一に考え介入的なアプローチを行います。市町村は様々な社会資源を用いながら住民の近いところで相談を行います。要保護児童対策地域協議会による学校、病院、警察等の子どもに関係している機関によるネットワークを張り巡らし、子どもと家庭を見ていくことが重要です。重篤なケースについては毎月関係機関によるケース会を開き、情報交換をします。各機関が「そこに虐待があるかもしれない」という意識をもって臨むことが大切です。最後になりますが、施設出身者の若者の就労を支援する東海地方の企業40社余りのグループ「ROOKIES(ルーキーズ)」を紹介させていただきます。18歳で施設を出た子どもたちの中には帰る家がない子どもたちがいます。加盟しているのは寮付きの職場を提供してくれる飲食業、理美容業、建設会社などで、もし都合により会社を退職することになっても次の働き口を加盟社内で見つけられるシステムとなっています。岐阜県内の企業はまだまだ少ない現状です。施設出身者についてのご理解、ご支援をお願いさせていただき、終わりとしたいと思います。

次例会のご案内 2月4日(火)12:30

「本年度の青年部」

関商工会議所 青年部 会長 宮部昌門様

担当:会場監督